

## 「利用者・支援者の1日」

## 「利用者の思う支援・支援者の思う支援とは」

支援者、支援職として日々汗を流しているが、果たして自分たちのやっていることは正解なのか。答えは出ないが、考えてしまう。関わり方や目的も事業所によって異なる。さらに考えてしまう。考えることはとても良いことであり、止めてしまってもいけないことということもわかってはいる。そうなのであれば、利用者の生の意見を直接聞いてみよう。そこで、支援者の考える支援と、利用者の考える支援との差異を感じ、考え込んでしまうのであれば、生の意見をもとにとことん考えこんでみよう。このような背景から、このニュースレター第35号を発刊します。ご一読頂けると幸いです。

就労継続支援B型事業所  
麦の家

今回のニュースレターでは、Aさんに協力していただき、Aさんの一日や私の仕事の流れ、そしてAさんが感じている支援や私たちが行っている支援の内容など触れてみました！



## Aさんの一日

朝は大体6時ごろ起きてます。そのあと、着替えたり歯を磨いたりしてから、朝ごはん。お母さんが準備してくれます。服は、お母さんが準備してくれたものを着てます。たまに自分が好きな気に入った服は自分で買ってます。お母さんの仕事と共に送ってもらって、車内では好きなラジオをかけてもらって聞きながら通所してます。

麦の家に9時前に着いて、バッグからスマホや充電器をセットして…準備しているところにみんなが通所してきて、挨拶したり話したりしてる。毎回声かけてくれる人たちがいるので、うれしいですね！楽しみに来てます。

午前中の作業は、最近お寿司の作業をすることが多くて、楽しい！身近なところで使われてるって考えるとうれしくなる。話しながら作業するときは活気があって楽しいし、みんなが静かな時でも集中して出来るので、頑張れます。お昼は麦の家で頼めるお弁当なんです。。。あんまりおいしくないんですよ（笑）

午後になると、ラジオを流してくれるのが楽しみ。内容が楽しく聞けて作業してます。たまに眠たくなっちゃう時もあるって、周りが話しかけてくれるのが助かってます（笑）

家に着いてからは、ご飯までつついスマホをいじっちゃう。友達から電話来て話したり、YOUTUBEやTwitter見たりすることが多い。夕食食べた。。。また寝るまでスマホいじっちゃうってすね（笑）スマホ3台持ってるので、全部自分が作ったアラームをセットしてから寝ます。朝、好きな曲で起きれるのが楽しみ！

## 職員の一曰

麦の家に出勤して、まず行うのは利用者さんへの作業準備です。今日は何名程の通所となるか、どの作業の納期が早いかなど考えて準備していきます。その他、毎朝業者さんに納品を行っているので、準備もしていきます。納品から帰ってくると、皆さんでラジオ体操をしている時間帯。

1,2限は作業が忙しければ、作業のお手伝いをしたり、書類を作ったり、面談をしたり、見学者の対応をしたり…基本的に午前中はいつもバタバタしますが、利用者さんと職員とで協力をして作業にあたります。

午後になると、違う業者さんへ納品など入る時が多いです。職員間で協力して私が納品しに行く時もあります。最近だと、暑くて暑くて…納品のおかげで運動不足が解消されている部分もあります。4限が終わり、みんなと一緒に掃除をしたり、帰る利用者さんと少し話をして、やっと一息つけます。夕方になり、また書類に追われてしまいます。どうしても作業中だと出来ない書類もあったりして…。そして、職員同士で、1日の振り返り・明日の作業の流れや職員の動きなど確認していきます。この利用者さんがいない時間でも、電話で相談があったり納品があったり、関係機関との連絡調整などすることはたくさんありますが、仕事があるだけ幸せなのかなって思いながら、最近では頑張っています。忙しいのは当たり前と考え、その中でも、利用者さんと協力をして作業に取り組んでいます。

# 支援について



## Aさんが感じる支援

一番ありがたいのはお母さんですね。いつも色々準備してくれたり、送迎してくれたり、買い物をお願いできたり(笑)。いずれはお母さんに頼りきりじゃなくて、自分でできることを増やしていかないと、、、って思ってるんですけどね～。

麦の家はないと困る!通所してみんなと話したり、作業したいし、何より工賃が楽しみだから。みんなと会って話したり、一緒に頑張ったりするのが嬉しい。活動の時間がすごく好きで、好きなDVD観たり、音楽聴いたり、おえかきしたり。最近やっとUNOに挑戦中です(笑)自分用にも買いました

職員さんは、作業教えてくれたり笑わせてくれたりして安心します。やっぱ自分ができないこととかを、出来るだけ挑戦させてくれたり、出来るようになったら褒めてくれて『やった～!』ってなる(笑)最近コロナでレクが出来ていないけど、落ち着いたらみんなでおでかけしたいですよ～!前楽しかったし。

## 職員が考えるAさんの支援

今回、インタビューに協力してくれたAさんは年齢も若く、就職を目指せる段階にあります。大切なのは、【どこでもいいから就職】ではなく【その方にあった就職先を提案していく】ことだと考えております。Aさんは、電気機器に興味をお持ちで、スマホ(3台)を駆使して、自分で着信音を作ったり、最近ではスマホ連動型キーボードを購入し、タイピングの練習にも励まれています。そういった特技や趣味を活かせる仕事はないか?と一緒に探しています。

本人の目標では【人見知りな部分を克服していきたい】とあり、積極的にみんなとコミュニケーションをしてもらったり、ちゃんと挨拶をする・自分から話しかけるように一緒に実践をしています。この一年で仲良く話せる利用者さんが出来たり、相手から話しかけてくれたり、ましてや以前はこのようなインタビューを受けることも恥ずかしかった方が、ここまで明るい性格になっていったのは、本人の力が基盤としてあったからだと思います。

その他、第3木曜日が利用者さんたちの全体ミーティングの日に設定しており、午後は職員会議の為、昼頃退所してもらっています。保護者の方のご都合で迎えに来れず、今まではミーティングの日に欠席してしまっていた状態でした。そこで、職員会議にて本人・お母さんに提案して、自宅まで送迎することで、通所が出来るようになりました。この自宅送迎中が貴重な時間で、本人が最近思っていることや将来のことなど、あまり話せなかったことが話せる貴重な時間となっています。

Aさんが笑顔でインタビューに応じている姿が想像できるね! Aさんの思う支援って、制度的な支援ではないような気がする。もちろん作業をするうえで必要なアドバイスについても触れられているけど、どちらかという、職員さんと利用者さんとで協力して作る、麦の家の雰囲気に対しての前向きな意見が多いね。

それに対して職員さんは、Aさんの麦の家に来るまでの『今まで』をしっかりとコミュニケーションをとりながら見たうえで、『これから』のことを考えているのがわかる。Aさんが大切にしている『居心地』と職員さんの考える『Aさんの強みをいかにして発揮してもらうには』とが合致するのには、すごく大きな難しさを感じるね。



# アルカディア グループホーム事業所



アルカディアグループホーム事業所では、グループホームに入居しながら、11年間一般就労をされているBさんにインタビューのご協力を頂きました。個人的ではありますが、私(編集委員)もアルカディアに入職して11年ということもあり、仕事の大変さや、やりがいなどの話を楽しくさせて頂いております。今回のニュースレターへも快くご協力を頂きました。楽しく会話をしながらインタビューをさせて頂き、沢山掲載したいお言葉もあったのですが、抜粋しQ&A形式で掲載させて頂きます。

Bさんには①就労者としての1日や思い。②グループホームの利用者としての1日や思いの2つのパターンでインタビューにご協力を頂きました。

## ○～就労者としての1日や思い～

Q「先ず、働くきっかけについて教えてください」

A「年金がもらえなく、働かなければいけないということもきっかけとしてあったが、今は全く違い、働くことが好きだと感じています。もちろんお金(給料)をもらうことも目的としてあるが、今は働くことが好きだという気持ちが強いです。」

Q「仕事のある日はどんな流れて過ごされていますか」

A「仕事が13時15分～20時までのため、朝食を10時くらいに食べて、昼前に出発して、途中でスーパーに寄って、お昼ご飯を買って出勤します。お昼ご飯を何にするか考えるのが楽しみで、最近のお気に入りはこちらのおにぎりです。」

Q「職場までの移動手段や所要時間はどのようにしていますか」

A「移動手段は自転車で、おおよそ30分から40分ほどかかります。帰りは夜で真っ暗なため、ゆっくりと自転車をこぐようにしています。転んだり危ない思いをすることが何度もあったので。そのため帰りは50分ほどかかることもあります。雨でも風でも雪でも台風でも、自転車で通っています。」

Q「仕事を休みたいと思うときはありますか」

A「それはありますよ。自分の出来る量以上の仕事があるときは大変だなと感じますし、過去には23時半まで残業したことも」

Q「仕事の量もありますが、人間関係で大変さを感じることはありますか」

A「ありますし、人の悪口を言うのは簡単ですが、言葉にしないようにしています。言葉にすることで、自分の中で消化出来そうなことも出来なくなってしまうたり、言霊になって返ってくると考えています。職場内でも悪口を言っている現場を目にしますが、私は敢えてその輪には入らないようにしています」

Q「今後、働いていくうえで、心配なことなどはありますか」

A「足の調子が良くないため、立ちっぱなしの仕事はしんどくなってしまうかもという不安はあります。このまま長く今の職場で働いていきたいという気持ちはありますが、体が付いてきてくれるのか。移動手段を電動自転車にするなどの工夫は今後考えていっても良いかなとは思っています。」

Q「踏み込んだ質問になってしまいますが、就職となると、周囲は健常者の方が多くなると思います。その中に飛び込んでいくことへの抵抗感などはありましたか」

A「あまり感じませんでした。実際に、精神障がいへの偏見はあると思います。働くうえで、自分に障がいがあるということを知っているのが職場の一部の方だけということが、今自分が働いている事実につながっていると思います。職場の方全員が障がいのあることを知っていたら、働いてないかもしれません。障がいのあることを知ってもらう安心感と、知らないで居てもらう安心感と、両面あると思います。」

○グループホーム利用者としての1日や思い

Q「Bさんのグループホームで過ごす1日についてうかがいたいのですが、お休みの日の過ごし方についてうかがいたいのですが」

A「グループホームで過ごす1日は仕事が休みの日ということになります。同じグループホームに仲の良い方が居るため、その方と一緒に日用品を買いに行ったり、録画していた音楽番組やドラマ、映画を観ています。コロナ禍になる前は、ライブに一緒に行くこともありました。」

Q「食事はどうされていますか」

A「世話人さんが食事を作ってくれて、仕事のある日はラップをかけて保存しておいてくれて、仕事が休みの日は、他の入居者と同じタイミングで食事を摂っています」

Q「グループホームでの生活で不便さは感じていますか？」

A「隣室との壁が薄いので、物音が気になることがあります。でも、隣室の方も、物音がたたないように気を付けてくれているのがわかるため、お互い様なのかなと思います」

Bさんの考える支援について

Q「お仕事もされて、買い物にも行けて、趣味もあって、色々ご自身で出来ることが強く伝わりました。Bさんにとって支援とは一体どんなものですか？支援が必要だと感じることはありますか？」

A「あります。有事の際に何か手助けしてほしいと思いますし、同時に、何かあった時に手助けしてくれる方がいると分かっているだけでも支援してもらっていると感じます」

Q「支援者に求めることがあれば、是非教えてください」

A「今後、もし自分が苦しくなった時に力になってほしい。定期的にグループホームに訪問してもらうことで安心の材料をもらえると良いと思います」

Q「話がそれてしまうのですが、Bさんにとって、同じグループホームに住まわれている方々の存在はどういったものですか？」

A「話し相手が同じ屋根の下にいることは安心につながるとも良いことです。距離感で例えるなら、友人でもなく他人でもなく、知人といった表現が一番適しているかと思います」

Q「知人と仲間という言葉は合致しますか？支援者目線だと、勝手に仲間だと思い込んでいる部分はあるのかなと思ひまして」

A「合致します。ですが、仲間の存在は支援とは全くの別物だと思います。」

Q「インタビューへのご協力、本当にありがとうございました」

Bさんの仕事への真摯な姿勢や、支援についての意見がうかがえましたね。GHの職員をしていると、買い物や手続きに一緒に行ったりする「目に見えるお手伝い」こそ支援だといった感覚が強くなってしまいそうだけど、Bさんのお話をうかがうと、同行などではなく、「日々の関わりなどの目に見えないお手伝い」の重要性もしっかりと伝わってきますね。「目に見えないお手伝い」を基礎と考えるのなら、その基礎がしっかりと出来ていれば、利用者さんもしっかりと、自分の強みを発揮したり、いざというときにお手伝いを求めやすくなるのかもしれないね。



## 編集後記

先ず、編集の都合上、今号の発刊が遅くなってしまったことにお詫びの一文を添えさせていただきます。

支援者といっても様々。働く事業所種別でも支援の内容は異なる。求められるものも異なる。

何かを一緒に形作っていく支援が求められているのか。今の形をどうしたら維持していくことが出来るのかを一緒に考え、実行していく支援が求められているのか。全く異なる形の支援が求められているのか。一度踏みとどまって考え直す良い機会となった。改めて認識することが出来たのは、支援の内容は違えど、法人理念である「リカバリーの伴走者」を貫くことが出来ていること。

この姿勢だけは、今後も不変でありたいということ。それを気づかせてくれたのは、インタビューに快く応じて頂いた、2名の利用者であるということ。今後も忘れてはならない。

群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL : 0276 (20) 2509 FAX : 0276 (20) 2510